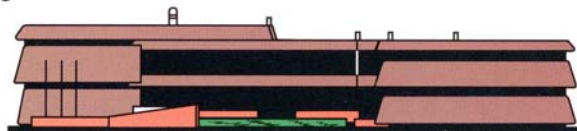


苫小牧市  
博物館だより

2005. 3

No.54



クマ意匠付土器（苫小牧市博物館蔵）

平成16年度 企画展

## 小さな動物ランド

～動物デザインに見る古代人のこころ～

2005年2月26日（土）～3月27日（日）

苫小牧市博物館・特別展示室

開館時間：午前9時30分～午後5時／休館日：毎週月曜日、3月20日

およそ5百万年前、地球上に誕生したヒトは動物の一員として、長い弱肉強食の時代を生き抜きました。そして、道具を発明し、動物を食料として、狩猟の対象として意識するようになりました。2万年ほど前、フランスのラスコーやスペインのアルタミラなどの洞窟壁画に描かれた野牛・鹿・馬・山羊は、狩りの成功を願う気持ちが込められているとされています。

日本では縄文時代以降、粘土・石・骨・角・木・青銅などを素材とする各種の動物意匠遺物が知られています。北海道でも縄文～続縄文文化に、クマ、シカ、イノシシ、カメ、シャチ、ラッコなどをデザインしたのを見ることができます。さらに、オホーツク文化やアイヌ文化においても動物をデザインしたものが見られます。

本展では、動物デザインを通して、ヒトと動物との係わりについて紹介します。

## 縄文



イノシシ形土製品（市立函館博物館蔵）



シャチ形土製品（市立函館博物館蔵）



動物形土製品<複製>  
(千歳市教育委員会蔵)

## 続縄文



クマ形石製品<複製>（北海道埋蔵文化財センター蔵）

## オホーツク



ラッコ形牙製品<複製>  
(北海道開拓記念館蔵)

## アイヌ



クマ意匠付棒酒箸（苫小牧市博物館蔵）

協力／網走市立博物館、虻田町教育委員会、江別市郷土資料館、上磯町教育委員会、釧路市埋蔵文化財調査センター、市立函館博物館、伊達市教育委員会、千歳市埋蔵文化財センター、常呂町教育委員会、北海道開拓記念館、(財)北海道埋蔵文化財センター



## 第48回特別展 砂田友治の画業

### ～人間賛歌の造形をめざして～

7月24日（土）から9月5日（日）まで、特別展「砂田友治の画業」が開催されました。

大地と人間が織りなす人間賛歌の世界を生涯創作し続け、北海道の美術界に大きな足跡を残した砂田友治は苫小牧出身の洋画家です。

本展では、砂田画伯の遺族から本市にご寄贈いただきました油彩画14点を中心に、1960年代の抽象作品から最晩年までの代表作21点を展示し、人間存在の根源的な形を求め続けた砂田友治の画業を紹介しました。



開会式後の展示解説



「北海の男たちII」1960年代前半

### 「勇払原野」

苫小牧に生まれた砂田にとって、原風景は荒涼とした勇払原野であった。1970年代後半から勇払原野をモチーフにした作品が連作される。

黄、青、緑、ローズが多用され、画面はにわかにも明るくなり、形象はより単純化された。



「勇払原野とウトナイ湖」1978年

### 「聖書に取材した作品」

80年代末から晩年まで、砂田の作品にはアダムとエヴァ、十字架、天使など「聖書」に取材したものが多くなる。それは人間の悲しみや怒り、また愛や正義をイエスの物語を通してわかりやすく伝えることができると考えたからだという。



「2人の天使と梯子」1999年

## 博物館の行事から

### ◆「東京芸術大学に集った画家たち展～日本画の新たな息吹～」◆

4月24日（土）～5月16日（日）まで、トヨタ自動車北海道株式会社主催による「東京芸術大学に集った画家たち展～日本画の新たな息吹～」が開催されました。昭和24年に東京芸術大学が発足し、そこに集った教授・学生らは西洋の影響を受けながら、多種多様な試みに挑み、戦後の日本画壇を支えた院展、日展、創画会という三大公募展の発展に大きく貢献しました。

今回の展覧会では、伝統的絵画から大きく変化し、戦後の日本画の基礎を築いた東京芸術大学の教授・学生らの作品27点が展示されました。



### ◆博物館大学講座◆

平成16年度の大学講座は、5月29日（土）に入学式を行い、自然部門4回、芸術部門1回、考古・民族部門2回、歴史部門2回の講演会が下記のように実施されました。

自然部門では「森と川の生態特集」として3回にわたり、森と川の生き物の生態系などについて、また、芸術部門では装飾意匠を図像学的に読み解き、その愉しさについて学びました。

考古部門では苫小牧に住んだ縄文人の生活の様子を残された道具や痕跡から探り、民族部門ではアイヌ三大歌人の一人である森竹竹市の生涯をたどりながら、彼の詩や短歌、俳句を紹介しました。

歴史部門では、苫細から苫小牧という漢字表記になった経緯や近隣のアイヌ語地名についても解

説し、秋田県象潟から発見された幕末の「勇払場所」古文書から、施設の産物など場所が果たした役割について学びました。2月19日（土）には卒業式が行われました。



### ◆見学会・観察会◆

今年のカブ見学会は、博物館めぐりと歴史見学会が実施されました。

博物館めぐりは7月31日（土）、真夏日の中、参加者は37名がバスに乗り込み、王子製紙森林博物館、ファールルの森、蔵元北の錦記念館を見学してきました。特に、ファールルの森では、蝶が舞う観察飼育舎では羽化したばかりのオオムラサキを観察し、感激しました。

歴史見学会は10月23日（土）、25名の参加があり、雨の降る中、一路北海道開拓の村へと向かいました。学芸員の説明を聞いた後、広大な敷内に道内各地から移設された明治・大正・昭和初期の建造物を約2時間あまりかけて見学しました。

また、開拓の村のポランティアによるしめ縄づくりの実演があり、参加者の中に初めて体験する人もいました。



「博物館めぐり」



## ◆土曜ミュージアム◆

今年で3年目を迎えた土曜ミュージアムは、昨年度と同じく前期（4～9月）は紙の工作教室、後期（10～2月）は紙すき体験教室を実施しました。

紙の工作教室は、季節にあった立体的な絵や記念日にちなんだものが印刷された紙をハサミで切り取り、ノリを使って仕上げていきます。特に、母の日・父の日のプレゼントとしては、子供たちには好評が良かったものとなりました。

紙すき体験教室は、牛乳パックを利用した手漉きハガキ作りで、初めての参加者も多く見られ、親と幼児が楽しく作り上げてゆきました。出来た

ハガキにはとても満足な顔をしていました。



紙の工作教室

## ◆土曜体験教室◆

博物館的なもの作り教室を8回実施しています。内容と参加者は下記のとおりでした。

「貝の風鈴作り」 8月21日

参加者 21名

「流木でつくろう」9月25日

参加者 16名

「縄文時代の釣り針を作る」10月30日

参加者 17名

「木の実でつくろう」11月27日

参加者 35名

「クリスマスリースづくり」12月11日

参加者 23名

「石に描こう」 1月22日

参加者 6名

「樽前山立体模型づくり」2月26日

参加者 8名

「土偶づくり」 3月26日

参加者 16名



「木の実でつくろう」



「釣り針を作る」

## ◆郷土学習◆

今年で16年目を迎えた郷土学習は、市内の小学3・4年生を対象に、博物館の資料を活用して、郷土苦小牧の歴史の移り変わりを学び、昔の道具に直接触れる体験学習を行っています。

苦小牧の自然や歴史を学ぶ展示学習では、昔の道具が何に使われたのかを考える、道具の歴史を知るクイズコーナーを設けています。

体験学習では、石臼の仕組みについて解説し、実際に米の粉作りを体験しています。

最後にクイズコーナーの答え合わせや質問の時間を設け、理解を深めるようにしています。

本年度は48学級、約1,544名の児童が参加しました。



### 「縄文土器づくり」

会員の佐藤恒也さんを講師に迎え、7～9月にかけて計3回シリーズで行われました。

「土器づくりの基本は粘土になれること」を合い言葉に開催されました。最初はなかなかうまく作れませんでした。回を重ねる度に縄文土器らしくなっていました。作品は一般公募で行った「土器づくり教室」に参加した人たちの作品と一緒に11月の「ミニ縄文展」で展示しました。



### 「文化公園の小さな生きものたち」

8月4日に事務局長の梅津治夫さんを講師に迎え、公園内のどんな所にどんな虫がいるのかを観察しました。

まず最初に、公園内を探索し、木を揺すたり、地面を動き回る虫たちを観察しました。博物館内に会場を移し、土の中に隠れている虫を電球の熱で追い出し、顕微鏡で観察しました。参加した子供たちは身の回りにたくさんの虫がいることを実感しました。



### 「写真の原点～写真の出来るまで～」

9月18日に監事の志方春樹さんを講師に迎え、カメラの種類やそれぞれのカメラやフィルムの特徴、撮影する際の注意点や構図の取り方などを学習した後、各自がカメラを持って、外に写真を撮りに行きました。

参加者は博物館に戻って、暗室内でフィルムの現像や焼付けを体験し、出来上がった白黒写真の魅力に感動していました。



### 「木組みの技・手作りの道具の魅力」

1月8日に理事の佐田正行さんを講師に迎え、木組みの技法を用いた一合マスを作りました。

注意事項として、墨付け線のそとを鋸で切るところが大事だと説明され、それぞれ製作にかかりました。

参加者は細かい作業や鑿を使う時など、なかなか上手い出来ないところもありましたが、自分で作る「物づくり」の楽しさを実感していました。



# 寄贈資料一覧

(平成16年3月～平成17年2月)

資 料 名	数 量	分 類	住 所	寄 贈 者
SPレコード	31	民 俗	苫小牧市	永 桶 充 志
在郷軍人会徽章、バッジ	2	//	//	富 田 文 雄
大相撲番付表（5月場所）	1	//	//	藤 原 恵 子
油彩画・長澤晃「三角帽子」、他	12	芸 術	//	明日の美術館 を夢見る会
雪下駄、雪草履、日和下駄	4	民 俗	//	入 谷 須 磨 子
油彩画・砂田友治「北海の男たち」、他	14	芸 術	札幌市	砂 田 良 子
鉄瓶、小鉢、羽釜、飯ごう、他	16	民 俗	石狩市	郷 野 清
川上澄生作蔵書票、絵はがき、他	7	芸 術	苫小牧市	弓 場 茂 生
油彩画・加藤一彩「花彩」	1	//	//	加 藤 一 彩
文書類、雑誌	200	民 俗	//	野土谷 末 松
鳥瞰図、鉄道沿線案内、写真、他	10	//	//	後 藤 英 明
油彩・コラージュ・大友一夫「現代-03」	7	芸 術	平取町	大 友 一 夫
紙幣、貨幣	18	歴 史	苫小牧市	村 川 淑 子
文献「海外のアイヌ文化財」	1	民 族	旭川市	青 柳 信 克
ニホンイノシシ骨	1	自 然	苫小牧市	佐 藤 一 夫
オレンジカード	1	民 俗	//	佐 藤 秀 文
苫小牧みず会創立15周年記念展画集	1	芸 術	//	木 尾 叔 郎
CD-ROM「ラムサール条約登録湿地を訪ねて」	1	自 然	//	市環境衛生部
炭アイロン、湯たんぽ、アルミ鍋、徳利、他	49	民 俗	厚真町	犬 飼 仙 松
ラベルアルバム	1	//	苫小牧市	野土谷 末 松
記念写真	1	//	//	田 中 重 穂
文献「自分史 勇払原野と私」	1	//	//	福 田 美 昭

# 月別入館者数

(平成16年3月～平成17年2月)

	個 人					団 体					合 計
	大 人	高校生	小 人	幼 児	小 計	大 人	高校生	小 人	幼 児	小 計	
3月	454	6	311	77	848	0	0	0	0	0	848
4月	2,497	15	497	97	3,106	0	0	0	0	0	3,106
5月	7,783	91	847	325	9,046	119	36	45	0	200	9,246
6月	240	1	419	43	703	70	0	406	0	476	1,179
7月	587	6	458	58	1,109	226	0	852	108	1,186	2,295
8月	757	14	426	86	1,281	22	0	87	0	111	1,392
9月	524	5	281	63	873	62	182	871	131	1,246	2,119
10月	504	2	589	139	1,234	49	0	549	0	598	1,832
11月	653	5	457	176	1,291	53	0	616	0	669	1,960
12月	215	0	127	34	376	0	0	0	0	0	376
1月	288	1	211	91	591	69	0	0	27	96	687
2月	273	0	114	36	423	0	0	51	0	51	474
合計	14,799	146	4,737	1,225	20,905	648	218	3,477	266	4,609	25,514



## 展示室から

### 2階収蔵展示室 ～蓄音機（写真）～

1876（明治10）年、アメリカの発明王トーマス・エジソンが円筒に巻きつけた錫箔によって音を録音・再生する装置を発明しました。これをフォノグラフと名づけました。

1886（明治19）年、電話機の発明で有名なグラハム・ベルにより、グラフォフォンと呼ばれる改良型が出されました。それは、錫箔に変わって厚紙にワックス（蝋）をぬった円筒式を考案しました。これに対抗したエジソンは、蝋を使用し、改良したフォノグラフ2号機を発表し販売を始めました。

一方、ベルの蓄音機開発チームで働いていたドイツ生まれのアメリカ移民エミール・ベルリナーは、独自で蓄音機の開発を行い、1887（明治20）年、円筒ではなく円盤に音を録音・再生する方式の蓄音機を開発しました。それをグラモフォンと

命名しました。これが現在のレコードの原型となっています。

展示しています蓄音機は、一台は蝋管式蓄音機で、1906（明治39）年5月にフォノグラフ社で製造されたものです。もう一台はラップ式で、大正時代に流行したタイプです。アメリカのビクター社で製造されたものです。



## —平成17年度の行事予定—

### ○特別展・企画展

第14回企画展「博物館所蔵優品展」4月23日～6月5日

第49回特別展「クビナガリュウが見た北海道～のぞいてみよう恐竜の時代～」

7月23日～8月28日

第15回企画展「北国の知恵～暖房の歴史～」3月12日～4月10日

### ○土曜ミュージアム

「紙と遊ぼう」 毎週土曜日午前11時と午後2時の2回。

4月～9月 「紙の工作教室」

10月～2月 「紙すき教室」

「昔の遊びをしよう」毎週土曜日。10種類の昔の遊びを体験。

### ○土曜体験教室 親子で作るものづくり教室。定員20名。

8月「はにわづくり」

12月「絵馬づくり」

10月「落葉のしおりづくり」

1月「土鈴づくり」

10月「木の枝を使ったコラージュを作る」

2月「勾玉づくり」

11月「木の実のリース作り」

3月「化石レプリカづくり」

### ○観察会・見学会 バス見学。定員40名。

9月～10月「芸術探訪」札幌芸術の森美術館の館内と野外彫刻の鑑賞。

## 職員動向

○転出 4月26日付 主査・川山博久（市立病院医事課）

○転入 4月26日付 主査・武山敏勝（国保課国保係）

苫小牧市博物館だより

平成17年3月15日発行・第54号

〒053-0011 苫小牧市末広町3丁目9番7号

編集・発行 苫小牧市博物館

TEL (0144) 35-2550～2552